

卒業生調査 結果

調査対象者

本学介護福祉学科の卒業生（第23期生）18名

調査期間

令和2年12月から令和3年1月

調査票回収数・回収率

回収：6名

回収率：33.3%

1. 回答者の属性

回答者6名のうち女性4名（66.7%）、男性2名（33.4%）であった。20代が4名（66.7%）、40代2名（33.3%）であった。

調査回答者が居住地は、秋田県の中央地域が最も多く3名（50.0%）、そして県南地域1名（16.7%）、由利本荘地域1名（16.7%）、秋田県外1名（16.7%）であった。

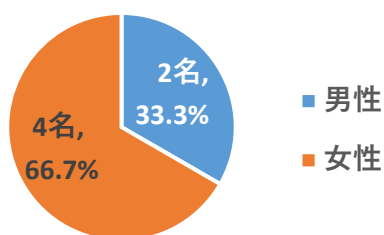


図1：性別(n=6)

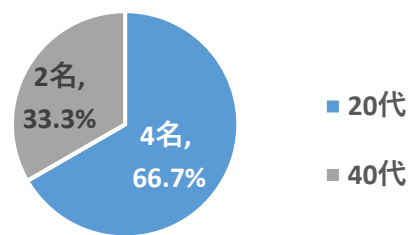


図2：年齢(n=6)

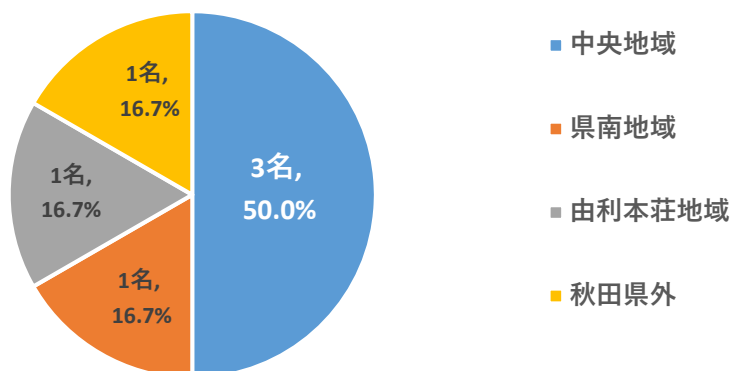


図3：居住地(n=6)

2. 卒業生の就業先・職種

回答者の全員が就業しており、種別は全員が「介護・福祉関係」、職種は全員が「ケアワーカー（介護職）」であった。就業先の運営主体は全員が「社会福祉法人」であった。

3. 在学中の教育・学生生活に関する満足度

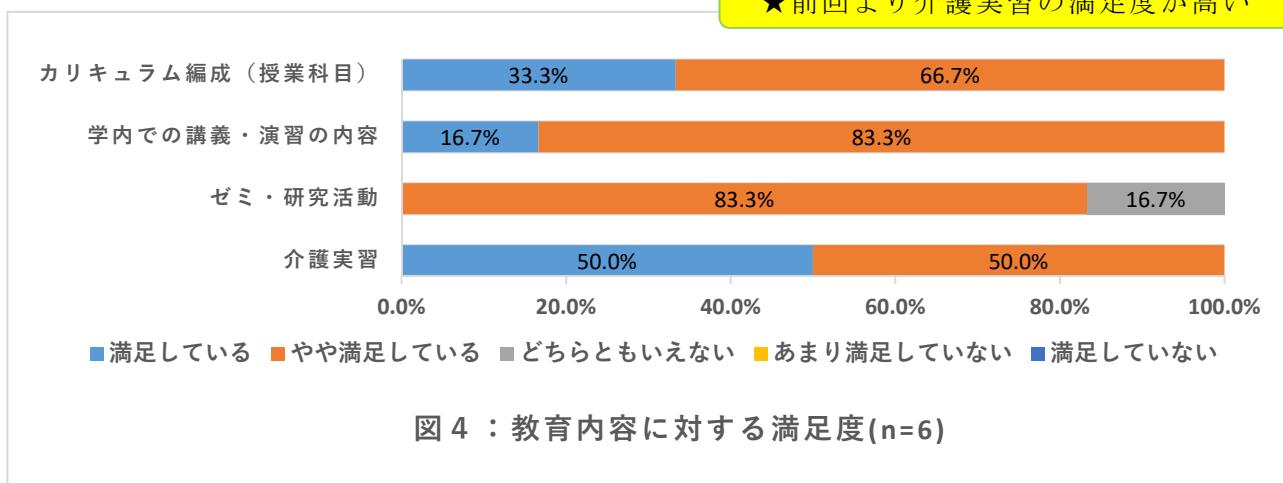
在学中の教育や学生生活について、『教育内容』、『学生生活』、『施設・設備』の区分で満足度を尋ねた。

1) 『教育内容』に関する満足度

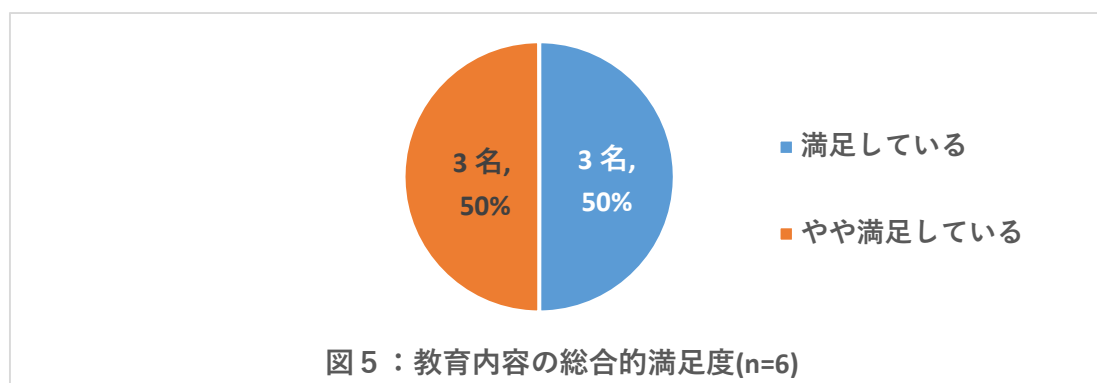
教育内容については、「カリキュラム編成(授業科目)」、「講義・演習の内容」、「ゼミ・研究活動」、「介護実習」の4項目について満足度を尋ね、更に教育内容全体に対しての総合的満足度を尋ねた。

4項目中、「満足している」が最も多かったものは「介護実習」3名(50.0%)であった。次いで「カリキュラム編成(授業科目)」2名(33.3%)、「学内での講義・演習」1名(16.7%)であった。

★前回より介護実習の満足度が高い



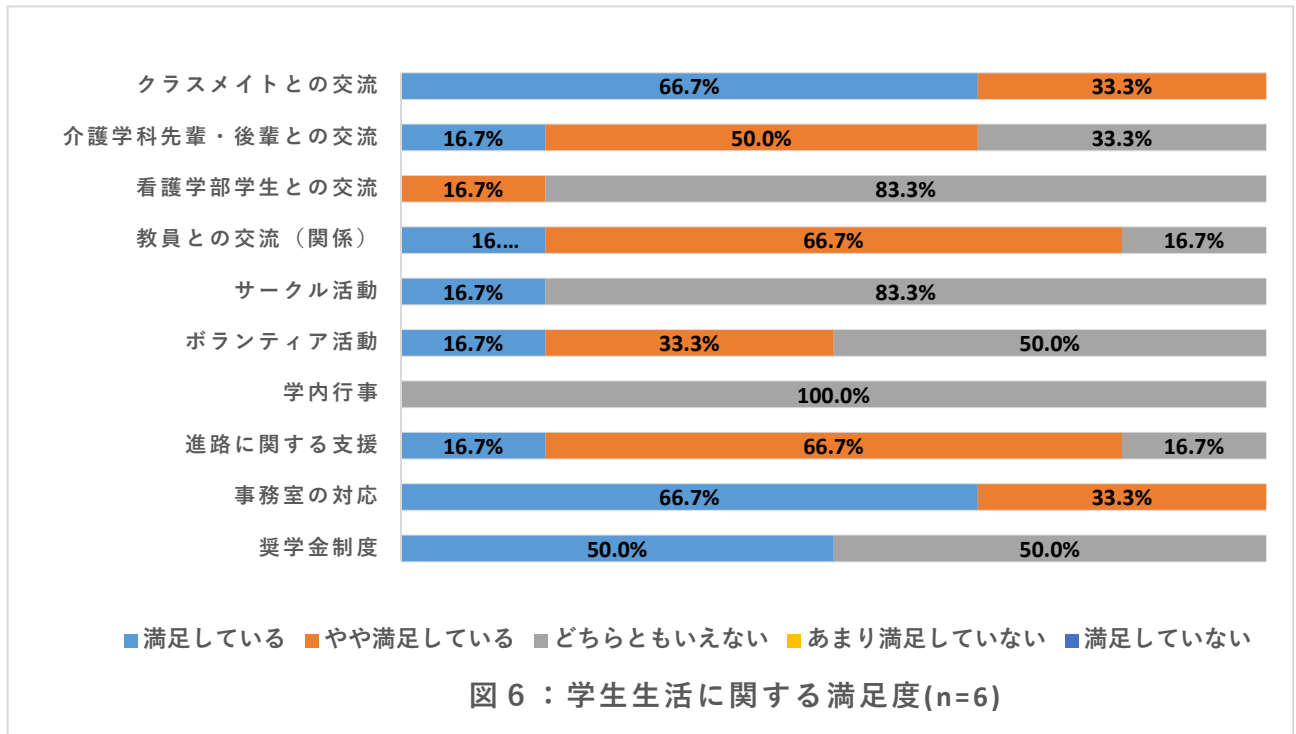
教育内容全体に対する総合的満足度は、「満足している」が3名(50.0%)、「やや満足している」が3名(50.0%)であった。



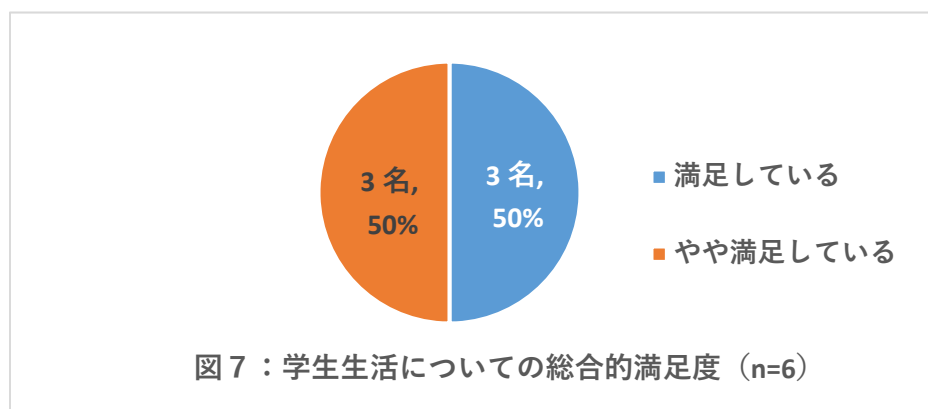
2) 『学生生活』に関する満足度

ここでは10項目に対する満足度を尋ねた。

「満足している」が最も高かった項目は「クラスメイトとの交流」「事務室の対応」各4名(66.7%)であった。次いで「奨学金制度」3名(50.0%)であった。これらの項目はどちらも「満足している」と「やや満足している」をあわせて100%であった。同様にあわせた数値が比較的高かった項目は「教員との交流」「進路に関する支援」であり、各83.3%であった。



学生生活に対する総合的満足度は、「満足している」が3名(50.0%)、「やや満足している」が3名(50.0%)であった。

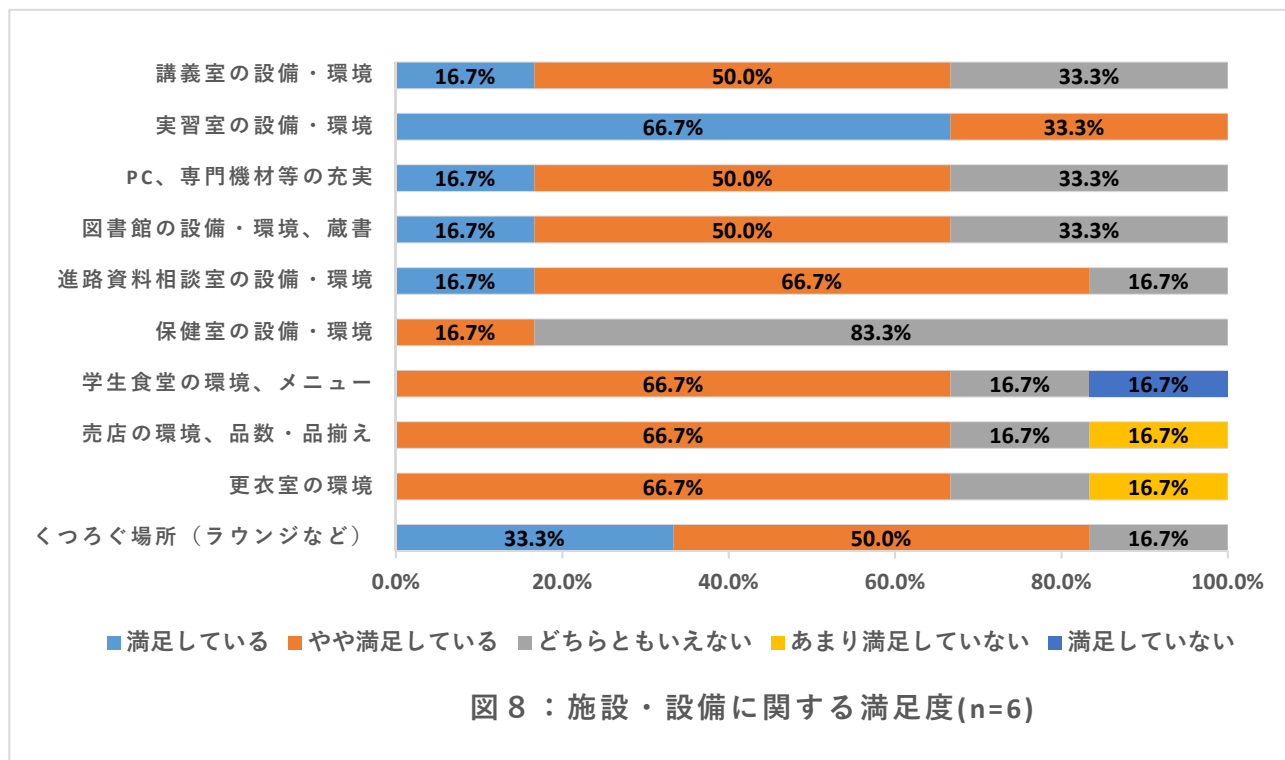


3) 『施設・設備』に関する満足度

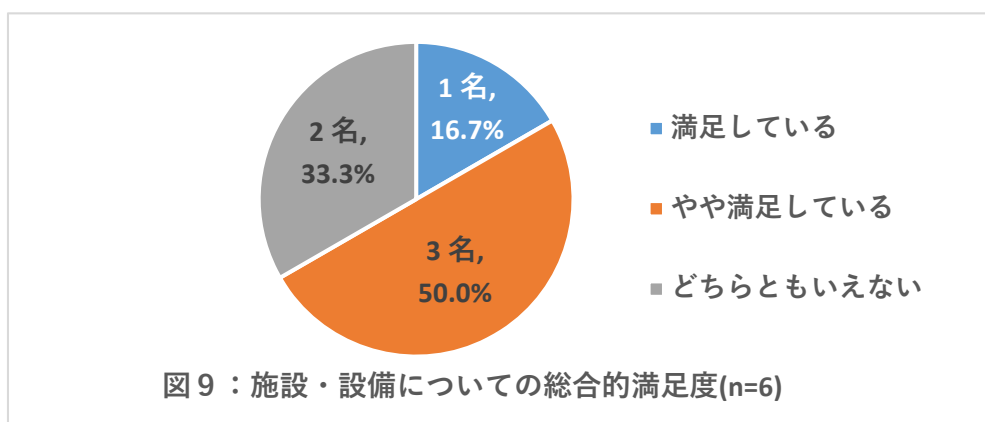
ここでは10項目に対する満足度を尋ねた。

「満足している」と「やや満足している」をあわせて100%となった項目が「実習室の設備環境」であった。次いで「進路資料相談室の設備環境」「くつろぐ場所（ラウンジなど）」が各83.3%であった。

「満足していない」との回答があった項目は「学生食堂の環境、メニュー」1名（16.7%）のみであった。「あまり満足していない」との回答があった項目は「売店の環境、品数・品揃え」「更衣室の環境」が各1名（16.7%）であった。



施設・設備に関する総合的満足度は、「満足している」が1名（16.7%）、「やや満足している」が3名（50.0%）、「どちらともいえない」が2名（33.3%）であった。



★前回より「身についた」の割合がどの項目でも減少している中、「自己研鑽」のみ増加。

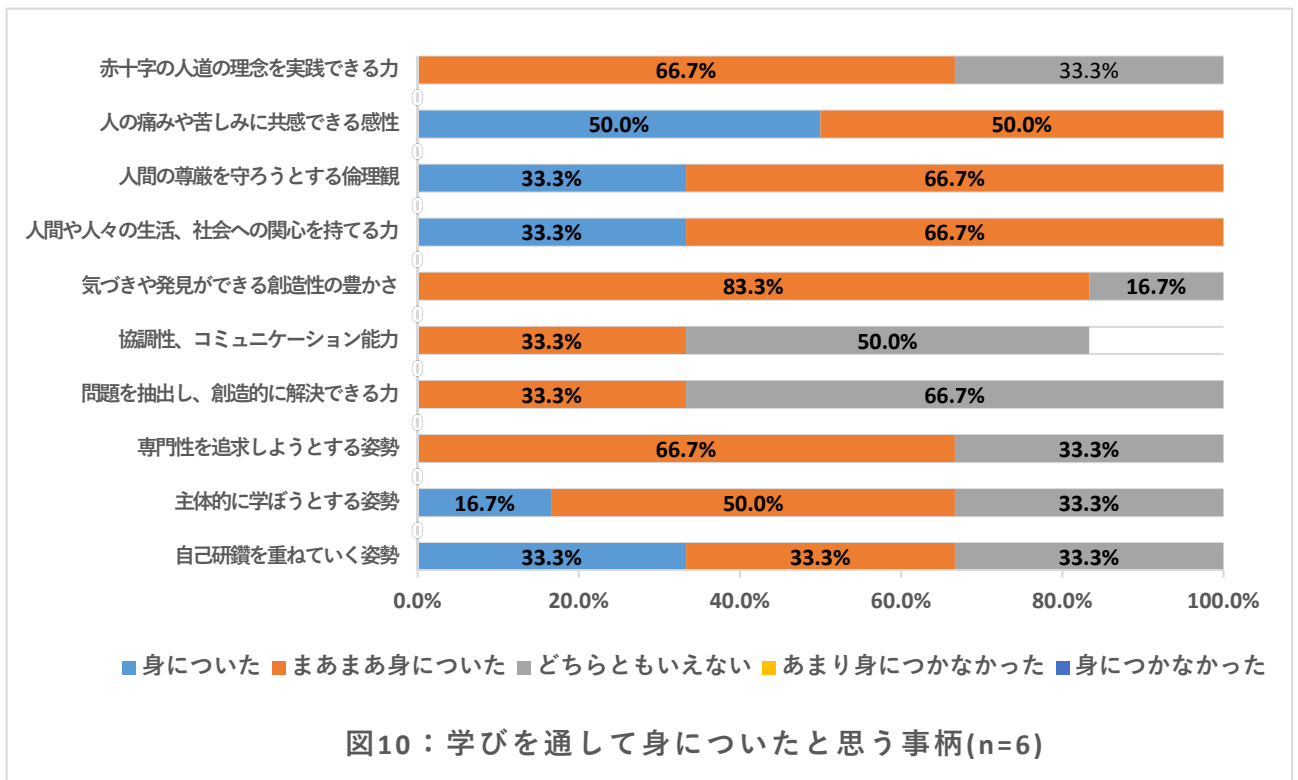
4. 本学での学びを通して身につけたこと

設定した10項目が本学の学びを通して身についたと思うか、について「身についた」から「身につかなかった」までの5件法で回答を求めた。

「身についた」という回答が最も多かった項目が「人の痛みや苦しみに共感できる感性」3名（50.0%）であった。

「身についた」と「まあまあ身についた」をあわせて100%となった項目は、「人の痛みや苦しみに共感できる感性」、「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」、「人間や人々の生活、社会への関心を持てる力」であった。

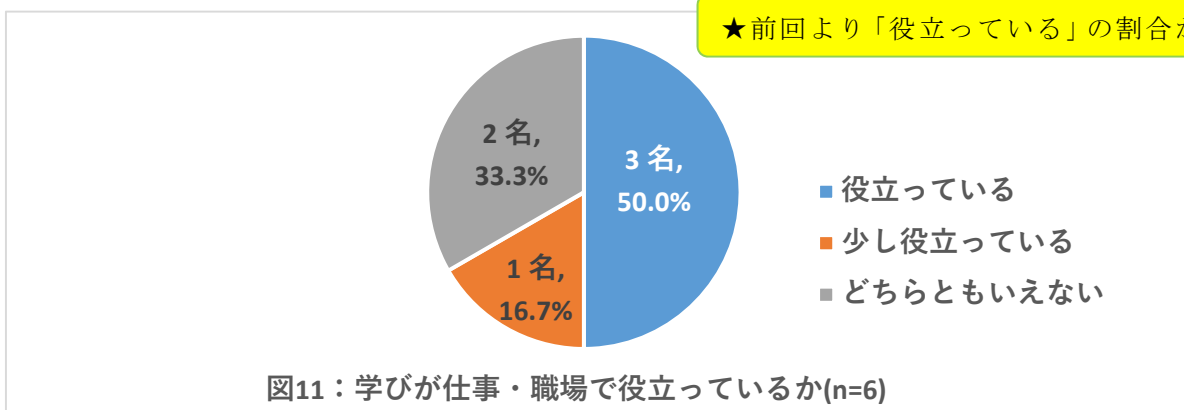
一方で「身についた」「まあまあ身についた」の合計が最も低かった項目は「協調性、コミュニケーション能力」、「問題を抽出し、創造的に解決できる力」が各2名（33.3%）であった。



5. 本学での学びが仕事（職場）で役立っているか

本学での学びが仕事・職場で役立っているかについては、「役立っている」が8名（88.9%）、「どちらともいえない」1名（11.1%）であった。

★前回より「役立っている」の割合が減。



6. 在学中にもっと勉強しておけばよかった事、身につけられればよかった事

在学中にもっと勉強をしておけば良かったと思う科目、身につけられればよかったと思う知識や技術について、自由記述により回答を得た。

勉強しておけば良かったと思う科目として、「こころとからだのしくみ」「介護の基本」「社会の理解」「障害の理解」「医療的ケアの基礎」が挙げられていた。

身につけられればよかったと思う知識や技術としては、「病気や症状についての知識」「下剤や軟膏の種類と取扱いについて」「法や制度について」「障害児・者に関する知識」「施設に関する知識」「高齢者に多い病気、症状」が挙げられていた。

表1. 勉強しておけばよかったと思う科目
(複数回答)

項目	出現数
こころとからだのしくみ	2
介護の基本	1
社会の理解	1
障害の理解	1
医療的ケアの基礎	1

表2. 身につけられればよかったと思う知識・技術
(複数回答)

項目	出現数
病気や症状についての知識	2
下剤や軟膏の種類と取扱いについて	1
法や制度について	1
障害児・障害者に関する知識	1
施設に関する知識	1
緊急時の対応	1
高齢者に多い病、症状	1

7. 授業・実習についての改善希望点

★前回は「医療的ケア」と「国試対策」

在学中に受けた授業（講義・演習）や実習について、改善してほしいと思ったことを自由記述で回答を求めたところ、災害福祉論についての意見が挙げられていた。

表3. 改善してほしいと思ったこと（自由記述）

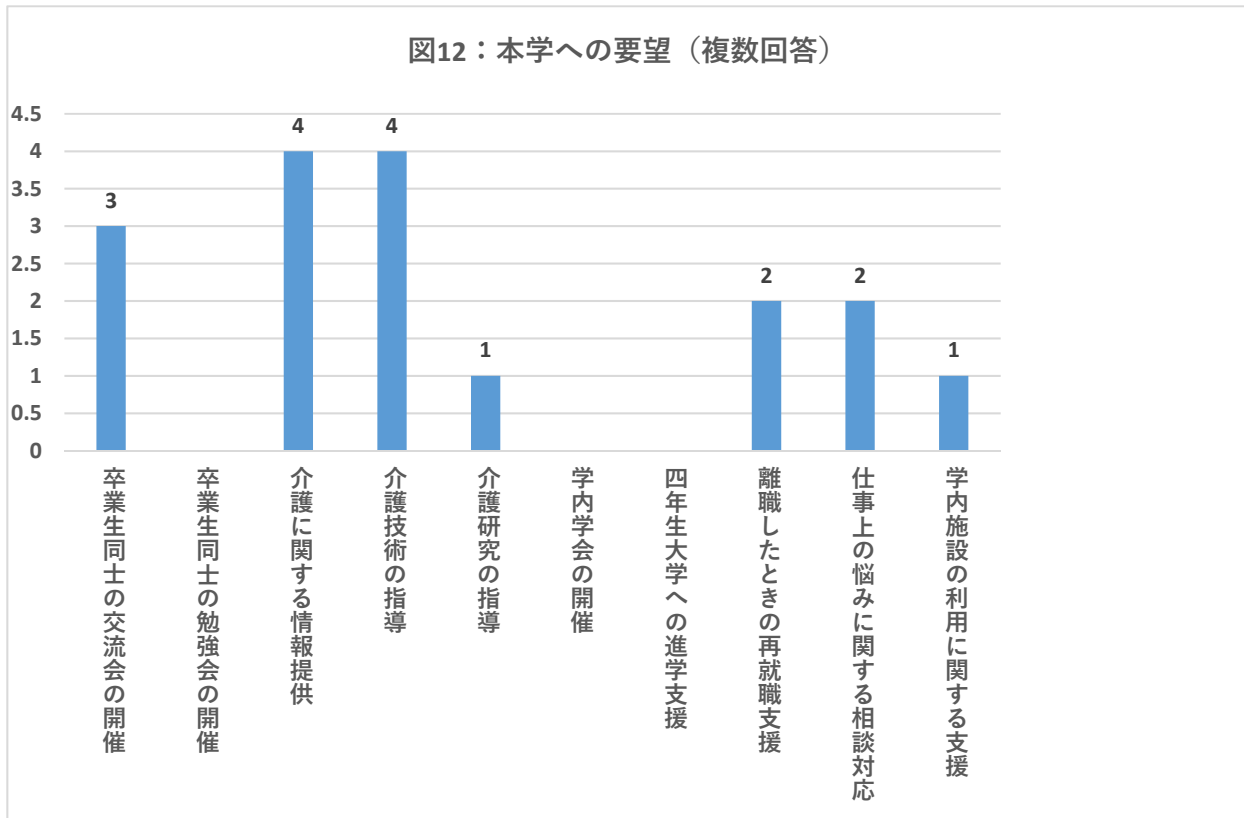
項目	内容
災害福祉論	2年の冬の時期に災害福祉論のレポートと国家試験対策が重なり大変であったため、災害福祉論のレポートを別の時期にしてほしかった。

8. 本学への要望

1) 本学から支援をしてほしいと思う事

本学から支援をしてほしいと事柄について11項目について複数回答で回答を求めた。

最も多かった項目は「介護に関する情報提供」「介護技術の指導」各4名(66.7%)であった。次いで「卒業生同士の交流会開催」3名(50.0%)、「離職したときの再就職支援」「仕事上の悩みに関する相談支援」各2名(33.3%)、「介護研究の指導」「学内施設の利用に関する支援」各1名(16.7%)であった。



9. 本学への意見

本学への意見について自由記述により回答を求めたところ、回答者はいなかった。